
狙って 撃って あの空を

kamome23

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

狙って 撃って あのを

【Nコード】

N1673BA

【作者名】

kamome23

【あらすじ】

二十一世紀に入って、数十年後の日本、ジオプラント計画が途中で中断してしまい。

東京二十三区の下に地下世界ができた。

そこに日本、世界各国から犯罪者が集まり、東京の治安は最悪になったそんな日本で繰り広げられる。

I・S・C 狙撃3課、そこに所属する狙撃主と観測手の奮闘記。民間警備会社で繰り広げられる、ミリタリー&スナイプラブコメディー

ミッション1 目標の捕獲

二十一世紀に入って、数十年後の日本、ジオプラント計画が途中で中断してしまい。

東京二十三区の下に地下世界ができた。

そこに日本、世界各国から犯罪者が集まり、東京の治安は最悪になった日本。

今日も、事件が起きていた。

「こちら、テイワズ3、目標を確認。ポイントD 72にいます」
あるビルの屋上から狙撃銃のスコープを覗く1人の青年。

彼は、黒髪を風でなびかせながら、様子を見ている

「こちら、テイワズ4、同じく確認。目標と一致します」

となりには、大きなスコープテレスコープを覗く1人の少女。

彼女は、ブラウンでショートの髪型。

「こちら、H.Q。それでは、テイワズ1、2は確保に急いでください」

男の無線機から、女性の声がする。

「テイワズ1、了解」

「テイワズ2、わかりました」

男と、女の人の声が聞こえた。2人の声は、若干震えている。

「こちら、テイワズ3、目標移動開始。方向は、ポイントEの方」
『ラッキー、テイワズ1。目標を仕留めにかかる』
『もう！ バカ兄貴、勝手に行かないで！』
先程の声とは、打って変わって明るい声が聞こえてくる。
『HQ、テイワズ3、4。逃がさないください』
「もちろん」
スコープを覗きながら目標を追っていく。
「レーザーサイトで狙いますね」
隣からちよつと高めの声が聞こえてきた。
「ああ、よろしく」
その言葉と同時に、赤い点が裏路地のゴミばかりが散在さんざんしている通路を走っている目標を捕らえた。
『サンキュー、よし。突っ込むぞ』
『ちよつと、待って！！』
騒々しい声が聞こえてきている。
「相変わらずだな」
スコープを見つつ、苦笑いしている。
「ほんとうですね」
となりで同じように笑っている。
しかし、2人ともスコープから目は離さない。
『とまれ！』
銃弾の音が三発聞こえて、空薬莖かいうじきょうが空中に舞う。
「あいつ、撃ちやがった……………」
「後先考えてませんね……………」
二人そろって、ため息をついてしまう。
『バカ兄貴！ 何やってるの！ 逃げちゃう！』
『こら！ まて！』
ねずみ色の清掃員の服を着た男が、目標と対峙した。
『あつ！ そつちに！』

同じく清掃員の服を着た女の人が、慌てて言う。

『嘘！？ うわぁー！ー！！ 敵に襲撃を受けた』

叫びとも何とも言えない声が無線機を通して聞こえてくる。実際、目標に飛びつかれて、戦ってはいる。

「頑張れ！」

何遊んでいるんだが、とため息をつきつつ状況を見守る。

『このやろう！ これどうだ！ 顔はやめろ！ 顔は！ー！』

男の顔に敵の猛攻が降り注ぐ。

『そのまま、確保してて、それじゃあ、えい！』

女の人が、目標に網をかけると、身動きが取れずに沈黙。

「終わったか」

その状況を一部始終見ていたので、結果がわかり、スコープを見るのをやめる。

「そうみたいですわね」

少女も、スコープを覗くのをやめて、メガネをかける。

「ふうー」

狙撃銃を、長い鞆の中にしまう。同じように少女も、大きなボストンバックの中に、いろいろな道具をしまい始めた。

「まったく、なんて仕事だ」

「そうばやかないください。真之さん」

狙撃銃をしまったバックを背負った青年の名前は、かがりざき明松崎 まさし真之。

そして、ボストンバックを肩にかけた少女の名前が、みたみ美丹 みな美菜。

この2人は、いったい何者なのか……………というところ、東京入嶋警

備保障 通称I・M・Cの社員で、狙撃3課。

場所変わって、狙撃3課

デスクワークが並ばれていて、11名が座っている中、立っている人物が2名。

「今回の損害、俺の顔です」

茶髪に髪を立たせていて、年齢は20代前後位に見える男 高木好古（たかぎ よしふる）は、目の前の黒メガネをかけた美人の女の人の前で抗議している。

好古の顔は、ひっかき傷で赤くなっていた。

「ふざけない」

一瞥いちべつしたのだが、入島 美幸（いりじま みゆき）。

彼女は、この会社の社長の娘らしいのだが、なぜここにいるのかは誰も知らない。

「それに、あの無意味な発砲は、なんですか？ 給料から引いておきます」

「え！ ちよつと！？ あれは、威嚇です威嚇」

好古が近づいていこうとしたときにブラウンのサイドポニーの女の子が耳を引っ張られる。

「すみませんね。家のバカ兄貴うぢが迷惑をかけて」

彼女は、好古の妹で、高木 好美（たかぎ よしみ）。

「第一、こんな任務で撃つか普通？」

真之が椅子に座りながら言うと、好古が睨むのではなく。美幸が睨んだ。

「こんな任務でも、任務は任務です」

「それにしても……逃げた猫の確保なんて、俺たちがやる仕事じゃないだろ」

今回の任務は、猫の確保、そのために8人が情報収集をしたりして、ようやく見つかった。

わざわざ、狙撃銃などを持ち出して、サポートする辺りは尋常ではない。

「大事な顧客の猫が逃げたんですから重要です」

「そうですね……」

ここら辺が、民間警備会社のつらい事情　もとい、狙撃3課の辛い事情なのだ。

狙撃課は、全部3つあり、1が一番上となっている。ようするには、3課は一番地位が低い部署なのだ。そのために、こんな仕事の時々舞い込んでくる。

「貴女みたいな、軍人出の人からすれば、分からないと思いますがね」

「軍人さんは、わかりません」

真之は、手でひらひらしながら話すのをやめた。

真之は陸軍出で、そこからこの会社に就職したのだ。

もともと、狙撃主をしていたのだが、詳しい経歴は誰も知らない。彼は、まだ18歳。数年前から、高等学校は全て廃止され、成人判定が16歳と一気に下がる。その影響を受けて育った世代の一人なのだ。

大学も行かずに軍に入った挙句2年で辞めて民間警備会社に入社。「まあまあ、2人ともケンカしない」

やさしい声が聞こえた。奥の方から立ち上がってきたのが、髪の毛が少し白みがかっていて、メガネをつけている大相　泰昌（おすぎ　やすまさ）。

すでに、50代ぐらい。ここ狙撃3課の課長である。

「ですが!」

「彼は、入社して、まだ2週間なんだから、慣れてなくても仕方がないから」

「ありがとうございます」

真之は、一応感謝の意を示す。

「それじゃあ、今日もいつも通り頑張りましょう」
課長の言葉で、報告書を書いていく。

「これは……………これでいいんだよな」

真之は、隣に座っている美菜に紙を数枚見せる。

「……………はい、これでいいですよ」

彼女は、すべて流し読みしてから返す。

彼女は観測手で、一応真之とはパートナー。

ここ数週間過ごしてみても、特に変わったところがなく。特徴的なのはメガネぐらいだろうと思う。

前に視力が悪いからメガネをしているのか？ と聞いたことがあり、その時の返答は、視力はいいですよ。だけで特に詳しい説明をして貰えなかった。

その後、報告書も書き終えると、いい時間帯になる。

「まったく、何で猫一匹で報告書をこんなに書かないといけないんだ」

「それは、仕方ないです。お仕事なんですから」

隣で、ありがたく突っ込みを入れてくれるので、二の次を言えない。

「真之！ 仕事明けにパツとやらないか？ パツと！」

まだ顔が赤い好古が肩をかけてくる。

「まったく、まあいいぜ」

多少乗り気がなくても、仲間の打ち上げには付きあう。というのは軍人時代の癖なのだろうと自分にため息をつく。

「兄貴が迷惑かけてます」

すぐに、好美が来る。いつもこの2人で1セットと言う感じ。

「他にも、来る奴いないのか？ 美丹どうする？」

「私は……………」

真之の言葉に少し迷っている様子を見せる。

「美菜ちゃんは、もちろん来るよな！？」

「それなら、わかりました」

好古が、少し強引に聞いたために、それに押されて頷く。

「美舟さん、すいませんね」

好美がペコペコと頭を下げて誤っている。

「そつだ、徹！ お前は どうする」

出て行くこととした、二枚目の男を呼びとめた。

彼の名前は、高槻 徹。

「今日は、先約があるから、無理」
それだけ言っ出ていく。

「今日もかよ、今日も」

徹は二枚目の事も幸いして、交友関係が広い。そのために、狙撃
3課の中で一番の情報通なのだ。

「仕方ないさ」

「他の連中は付きあい悪いから、俺たち4人で行くか」

「そうだな」

「いいですよ」

こうして、1日が終わって行く。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1673ba/>

狙って 撃って あの空を

2012年1月4日07時46分発行